

種生物学会ニュースレター

The Society for the Study of Species Biology Newsletter No. 50



会長就任のご挨拶	1	お知らせ	7
第 49 回 種生物学シンポジウム（福井）のご案内	2	会計報告	8
第 48 回 種生物学シンポジウム（北海道）の記録	6		

会長就任のご挨拶

大原 雅

2016 年 1 月から会長に就任したにもかかわらず、このニュースレターが初めてのご挨拶になってしまい、申し訳ありません。現在、陶山佳久さん（副会長）、富松裕さん（庶務幹事）、堂園いくみさん（会計幹事）ほか、選挙で選ばれた 14 名の幹事と、会長が依嘱した 3 名の監査委員のみなさんと学会運営にあたっています。また、2016 年末までは、渡邊幹男さんが長年、庶務・会計幹事をお務めいただきました。本当にありがとうございました。このほか、和文誌編集委員長には川北篤さん、英文誌（*Plant Species Biology*）編集委員長は引き続き大原が兼務しております。さらに、渉外担当、HP 担当、男女共同参画の委員の皆さんと一緒に、種生物学会と会員の皆さんの研究の発展のために頑張っていますので、よろしくお願い申し上げます。

種生物学会は、学会として正式に発足したのは 1980 年ですが、その歩みを始めたのは 1968 年です。分類学を新しい観点から見直し、発展させようという意気込みあふれた当時の若手研究者たちが、種生物学・進化生物学的な考えや手法を身につけて分類学の勉強会を開催しました。これが「種生物学シンポジウム」の前身となる「実験分類学シンポジウム」です。

私が種生物学シンポジウムに初めて参加したのが、1981 年（第 12 回）の富山でのシンポジウムでした。その時は、Population Biology（集団生物学）における生態学と遺伝学が融合した研究アプローチに関するシンポジウムが企画されました。当時、個体群生態学で議論されていた r （内的増殖率）と K （環境収容力）といったパラメーターが遺伝的に変異するものであること、一方、遺伝学に対しては適応度が密度によって変化するという、双方の学問分野にとって次の研究の視野を広げる内容でした。修士 1 年であった私にとっては（自分の不勉強のせい）発表内容、そして発表に基づき展開される議論も難しく（自分の不勉強のせい）「!？」の連続でしたが、身震いするような刺激を受けたことは鮮明に記憶しています。そして、いま当時のことを思い出しながら、このご挨拶を書いている、各研

究分野の手法や概念は大きく進展しても、私たちの「種生物学シンポジウム」は、植物の生命科学を明らかにする大きな目標を持った、進化生物学、植物分類学、生態学、育種学、雑草学、林学、農学、保全生物学などさまざまな分野の研究者が、現在も分野の枠を超えて交流・議論する場となっていることを、改めて実感しています。

上述したように、種生物学会は 1980 年に学会としてスタートを切りましたが、その後、1986 年には英文誌 *Plant Species Biology* を発刊し、現在は国内外の多くの研究者の研究成果の投稿があり、Impact Factor も 1.25 と名実ともに国際誌となっています。また、会員のみなさまによりご投稿いただきやすいように、投稿規定の改訂も致しました。和文誌「種生物学研究」に関しても、2000 年からは単行本として出版され、会員のみなさまだけでなく、一般の方にも書店で購入いただき、私たちの研究の最前線を知っていただけるようになっています。

さて、種生物学会が築き上げてきた学問は、今後も引き続き発展していくことは疑いの余地ありません。しかし、種生物学会は会員が約 350 名の小規模な学会で、他の大きな学会と同様に学会離れ、会員減少、ひいては財政難の荒波の中にいることも事実です。このため、前会長の川窪さんの代から、今後の種生物学会のあり方について学会員のみなさまと議論を続けています。一朝一夕に答えは出ませんが、まず取組んでいるのが、シンポジウムをより充実させ、より多くの学会員にご参加いただくこと、そして参加された非会員の方には新たに会員になっていただく機会になるようにと考えています。

種生物学シンポジウムでは、これまで長年にわたり「合宿形式」を踏襲しており、参加者が夜通し研究の議論、交流を行える希少な学会です。また、企画シンポジウム以外にも、会員のポスター発表を実施しています。小さな学会だからこそ、さらに合宿だからこそ、ポスターの前で若い大学院生とベテランの先生とが長時間議論する姿も普通に見かける光景となっています。本ニュースレターでご案

内いただきますが、第 49 回の種生物学シンポジウム（福井）も魅力的なプログラムが企画されていますので、是非ともご参加ください。そして、来年（2018 年）は、1968 年の「実験分類学シンポジウム」から半世紀となる、第 50 回

のシンポジウムを迎えます。会長として、これからも若い研究者の方々にとって、より魅力ある学会となるように努力して参りますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

第 49 回 種生物学シンポジウム（福井）のご案内

— 遠いようで案外近い、福井へきねま！ —

今年の種生物学シンポジウムは、弘前大・山尾さんの企画で「植物が感じる世界」がテーマです。環境応答、情報伝達、そして生態現象へと、ミクロからマクロまでの繋がりの中で植物の多様な生き様が見られそうで、ワクワクです。「見る」といえば、プレシンポジウムでは、見えにくい生物・見えない物質を大石さん・平さんが、視点を低くして、あるいはマス技術で見せてくださいます。こちらも見逃さないですね。今回はミニシンポジウムも企画されています。雑草と人の深い係わりが見えることでしょう。そして何より、ポスター発表に例年通り、たっぷり時間を取っています。必ずや、皆さんの研究発展にとって大切な時間になるはずです。

遠いかなと思う北陸・福井ですけれど、関西、関東からは JR で 2、3 時間、札幌、仙台、東京、福岡からは小松空港へ飛行機便があって、案外のアクセスしやすさです。福井へきねま！

● 全体のスケジュール

12 月 1 日（金）

- 13:00–18:00 各種委員会
- 16:00–18:00 受付開始・ポスター貼付
- 18:00–19:00 **プレシンポジウム 1 「しゃがむと見える：コケ生物学への誘い」** 大石善隆（福井県立大学）
- 19:00–20:00 夕食
- 20:00–21:00 **プレシンポジウム 2 「見えないものが見える：生態学におけるイメージングマス技術活用の可能性」** 平 修（福井県立大学）
- 21:00– 交流会

12 月 2 日（土）

- 08:30–10:00 ポスター発表（奇数コアタイム）
- 10:00–11:30 ポスター発表（偶数コアタイム）
- 12:00–13:00 昼食
- 13:00–16:00 **ミニシンポジウム「人と係る野生植物、雑草」** 企画者：吉岡俊人（福井県立大学）
- 16:20–17:30 片岡奨励賞受賞講演会
- 17:30–18:30 種生物学会 2017 年度総会
- 18:30–21:00 懇親会（片岡奨励賞・PSB 論文賞・ポスター受賞者授賞式を含む）
- 21:00– 交流会

12 月 3 日（日）

- 08:30–12:10 **企画シンポジウム「植物が感じる世界 —巧みな情報伝達システムが可能にする植物の柔軟な応答—」**
企画者：山尾 僚（弘前大学）
- 12:10–13:10 昼食
- 13:10–15:30 **企画シンポジウム（つづき）**
- 15:45 解散
- 15:50 送迎バス出発
- 16:11 路線バス（無料）出発

締切日

- 参加・発表申し込み 11 月 13 日（月）
- 参加費・宿泊費払込み 11 月 13 日（月）
- ポスター発表要旨 11 月 16 日（木）

● ミニシンポジウム「人と係る野生植物、雑草」

12月2日(土) 企画者：吉岡俊人(福井県立大学)

雑草は四つの顔を持っている。農業有害種としての顔、侵略的外来種としての顔、作物祖先種としての顔、そして絶滅危惧種としての顔である。前2者は、2002年の本学会シンポジウム・テーマとなり、『農業と雑草の生態学』として纏められた。ここでは後の2つを取り上げて、雑草と人の係わりをあらためて考えてみたい。

13:00-13:15 趣旨説明

13:15-14:05 「野生コムギ:種子休眠性の自然環境への適応と栽培化にともなう変化」

大田正次(福井県立大学)

14:15-14:45 「畦畔雑草アゼオトギリが絶滅危惧種になった理由から考える水田平野の水のこと」

吉岡俊人(福井県立大学)

14:45-15:35 「希少雑草の宝庫、中池見湿地の将来に向けて」

関岡裕明(株 BOGA)

15:40-16:00 総合討論

● 企画シンポジウム「植物が感じる世界 —巧みな情報伝達システムが可能にする植物の柔軟な応答—」

12月3日(日) 企画者：山尾 僚(弘前大学)

人知れず静かに成長し、花を咲かせ、種をつくり、そしていつの間にか枯れてゆく植物たち。ときに過酷な環境で成長や繁殖を強いられる彼らは、動物のように自由に移動することができない状況でどのように生き抜いているのだろうか。ヒトを含む動物の多くは発達した多様な感覚受容器官を駆使して周囲の環境情報を受容し、発達した中枢神経系により迅速に処理することで柔軟かつ可塑的な行動応答を可能にしている。そのような神経系を備えていない植物では、独自の情報受利用システムに基づく応答を進化させていることが予想される。本シンポジウムでは、植物の情報戦略と応答に関する最新の知見を集約し、生物としての植物を捉え直すことで植物科学の新たな展開を探りたい。

08:30-08:40 趣旨説明

08:40-09:30 「植物の匂いコミュニケーション」

塩尻かおり(龍谷大学)

09:30-10:20 「環境識別による植物の多様なふるまい」

山尾 僚(弘前大学)・向井裕美(森林総合研究所)

10:30-11:20 「種子の生物的環境に応じた可塑的な発芽」

向井裕美(森林総合研究所)・石川勇人(熊本大学)・澤進一郎(熊本大学)・山尾僚(弘前大学)

11:20-12:10 「ペプチドホルモンを介した植物の巧みな生存戦略」

松林嘉克(名古屋大学)

13:10-14:00 「植物の組織特異的な環境センシング」

遠藤 求(京都大学)

14:10-15:00 「他者を操る植物の諸行動」

川窪伸光(岐阜大学)

15:00-15:30 総合討論

● 参加・宿泊申し込み 【11月13日(月)まで】

- 参加・宿泊の申し込みは、学会ウェブサイトのオンライン登録フォームにて受け付けます。
- 参加費は、**学生(会員 4,000 円、非会員 6,000 円)、一般(会員 8,000 円、非会員 12,000 円)**です。
- 宿泊費(食事代を含む)は、原則として、次の3パターンでお願いいたします。
 - a. 全日程参加：2泊&食事(1日目夕食、2日目朝食・昼食・懇親会、3日目朝食・昼食)
学生(会員・非会員とも) 20,000円、一般(会員・非会員とも) 25,000円
 - b. 2日目から参加：1泊&食事(2日目昼食・懇親会、3日目朝食・昼食)
学生(会員・非会員とも) 13,000円、一般(会員・非会員とも) 18,000円

c. 3日目は早めに帰る：2泊&食事（1日目夕食、2日目朝食・昼食・懇親会、3日目朝食）

学生（会員・非会員とも）18,500円、一般（会員・非会員とも）23,500円

※ 上記以外のパターンをご希望の方は、必要な宿泊・食事の内容を登録フォームの備考欄にご記入下さい。

※ 現在は非会員の方でも、参加申し込み前にご入会下されば、学会員と同じ参加費が適用されます。是非、入会をご検討下さい。種生物学会への入会はオンライン <http://www.speciesbiology.org/entry/form.php> で手続きいただけます。

－ 部屋は、男女別の相部屋（和室）になります。部屋の設備、アメニティについては、すかっとランド九頭竜のホームページ <http://www.sukattoland-yu.jp/> をご覧下さい。

※ 1人部屋（洋室2室、申込先着順に受付）、あるいはご家族で1部屋をご希望の方は、その旨を登録フォームの備考欄にご記入下さい。

● 参加費・宿泊費の払込み 【11月13日（月）まで】

参加費と宿泊費の合計額を、11月13日（月）までに、次のゆうちょ振替口座に払込んで下さい。

ゆうちょ振替口座番号： 00760-1-70097

口座名義： 49 種生物シンポ

※ 11月13日（月）以降は、払込みをしないで下さい。期日を過ぎた場合は、当日受付にて現金でお支払い下さい。

※ 本シンポジウム専用の払込取扱票は準備しておりません。払込手数料はご自身でご負担下さい。**参加申し込みの際に払込み日と払込郵便局名を登録フォームにご記入いただく必要があります**ので、振替払込請求書兼受領証を必ず保管して下さい。一旦払込まれた参加費・宿泊費は返却できませんので、ご承知おき下さい。領収書はシンポジウム当日に受付にてお渡しいたします。

● 子連れ参加支援

会場内に保育士が常駐する託児室を開設し、利用料金の一部を支援いたします。託児室の利用を希望される方は、登録フォーム備考欄に利用日程およびお子様の年齢・性別をご記入下さい。託児費用や託児可能時間帯等の利用詳細について、折り返しメールにてご連絡いたします。

● ポスター発表の募集 【発表申込み11月13日（月）まで、要旨提出は11月16日（木）まで】

- － ポスター発表を希望される方は、参加申込み時にポスター発表もお申込み下さい。その際、ポスター賞に応募するかどうかのチェックも忘れずをお願いいたします。**なお、ポスター発表の申込者は演者（種生物学会会員で2017年度分の会費を納入済みであることが必要です）に限り**ます。
- － ポスターはA0 縦サイズ相当で作成して下さい。展示ボードは横90cm×縦180cm（30cmの足付き）です。
- － ポスター発表要旨（A4 縦サイズ、MS Word 2013形式）は、学会ウェブサイトに掲載されるひな形に基づいて作成して下さい。
- － ポスター発表要旨は、11月16日（木）までに運営委員会（吉岡 yoshi@fpu.ac.jp）へメール添付でお送り下さい（atを@に置き換えてください）。必ず、メールの件名を『49 種生物ポスター__〇〇』（__はアンダーバー、〇〇は申込者の姓名）として下さい。

● 会場・アクセス

すかっとランド九頭竜（〒910-0041 福井県福井市天营生町3-10、電話：0776-59-1188）

<http://www.sukattoland-yu.jp/>（施設概要をご覧下さい）

講演会場：大会議室（2階）

ポスター・交流会会場：多目的ホール（1階別棟）

託児室：小宴会場（3階）

食事・懇親会会場：大宴会場（2階）

各種委員会：小会議室・伝承室（1階）

宿泊：和室・洋室（3～5階）

JR 福井駅からのアクセス

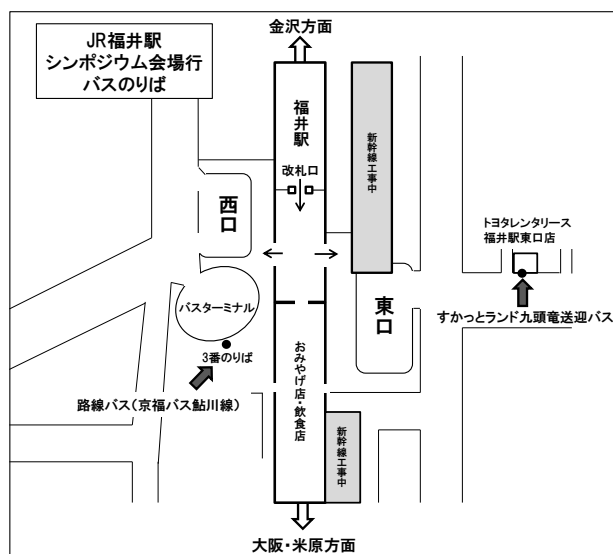
【往路】JR 福井駅 → すかっとランド九頭竜（所要時間 約 30 分）

- ① ホテル送迎バス（25 人乗り 2 台）が、12 月 1 日（金）16：00、JR 福井駅東口トヨタレンタリース前から発車します。
- ② 路線バス（京福バス鮎川線）を無料！で利用できます。JR 福井駅西口バスターミナル 3 番乗り場から発車します。
乗車時にバス内に備え付けの「すかっとランド九頭竜行き専用乗車チケット」を取り、降車の際に運転手に渡す必要がありますのでご注意ください。

発車時刻（平日）08:35, 09:13, 10:13, 11:13, 12:13, 13:13, 15:13, 16:13, 17:13, 19:13

（土曜）08:35, 09:13, 10:13, 11:13, 13:13, 15:13, 16:13, 17:13, 19:13

（日曜）08:35, 10:13, 11:13, 13:13, 15:13, 16:13, 17:13, 19:13



【復路】すかっとランド九頭竜 → JR 福井駅（所要時間 約 30 分）

- ① ホテル送迎バス（25 人乗り 2 台）が、12 月 3 日（日）15：50、すかっとランド九頭竜玄関前から出発します。
- ② 路線バス（京福バス鮎川線）を無料！で利用できます。すかっとランド九頭竜福井駅方面路線バス乗り場から発車します。**ホテルフロントで無料券を受け取ってから乗車する必要があります。**バス内には備え付けチケットがないのでご注意ください。

発車時刻（土曜）07:56, 08:31, 09:21, 09:51, 11:21, 13:11, 14:21, 16:11, 17:21, 19:07

（日曜）08:31, 09:51, 11:21, 13:11, 14:21, 16:11, 17:21, 18:21

小松空港 → JR 福井駅

- ① 小松空港～（京福バス空港連絡バス）～福井駅（1,250 円、所要時間 約 55 分）

京福バス空港連絡バス時刻表 <http://bus.keifuku.co.jp/air/komatsu.shtml>

- ② 小松空港～（小松バス）～小松駅～（JR 北陸線）～福井駅

小松バス小松空港時刻表 <http://komatsubus.jp/time/time13.pdf>

JR 北陸線小松駅時刻表 <https://www.jr-odekake.net/eki/timetable.php?id=0541442>

<往路の例：仙台空港から福井駅へ>

ANA 仙台空港 09:30 発 → 小松空港 10:40 着

→ 順調にいけば → 10:50 発の京福バス空港連絡バスで福井駅へ → 11:45 福井駅着

→ 少し遅れたら → 11:00 発の小松バスで小松駅へ → 11:41 小松駅発の特急で福井駅へ → 12:07 福井駅着

● 第 49 回種生物学シンポジウム運営委員会

吉岡俊人・大田正次・水口亜樹（福井県立大学生物資源学部）

問い合わせ先：吉岡俊人 yoshi at fpu.ac.jp（at を @ に置き換えてください）

電話 0776-61-6000（内線 3608）、FAX 0776-61-6015

第 48 回 種生物学シンポジウム (北海道) の記録

2016 年 12 月 2 日 (金) ~4 日 (日) キロロトリビュートポートフォリオホテル北海道

プレシンポジウム

三浦徹 (北海道大学) 昆虫類における表現型可塑性の生物学

片岡奨励賞受賞講演会

佐藤安弘 (龍谷大学) 微細な変異から紐解くシロイヌナズナ属植物の対被食防衛

立木佑弥 (京都大学) 植物の同調繁殖戦略の多様性を生活史から読み解く

企画シンポジウム「日本列島の植物に秘められた送粉生態学の新しい世界」 企画者: 川北篤 (京都大)

福原達人 (福岡教育大学) ノグルミの異型異熟性とアザミウマによる送粉

新垣則雄 (沖縄県農業研究センター) 擬交尾するハナムグリによるボウランの受粉

小林峻 (琉球大学) 哺乳類媒植物ウヅルカンダの送粉者シフトと受粉機構

船本大智 (神戸大学) 夜行性ガ類によるツリガネニンジン属の花粉媒介

望月昂 (京都大学) 双翅目媒花における新しい送粉シンドローム

武田和也 (京都大学) 滑る花卉: 蜜腺露出型の花における新しい盗蜜者排除機構

渡邊謙太 (沖縄工業高等専門学校) 島におけるボチョウジ属の繁殖様式と進化

山崎理 (チューリッヒ大学) オオバギ属における花序形態・送粉様式の多様性と防衛アリとの関係

川北篤 (京都大学) コミカンソウ科における送粉様式の多様性と種分化

長谷川匡弘 (大阪市立自然史博物館) ママコナ属でみられるポリネーターシフトを伴う花形態の多様化

奥山雄大・柿嶋聡 (国立科学博物館)・岡本朋子 (岐阜大学) 花の香りから解き明かす未知の送粉様式の多様性とその進化

ティーレクチャー

田辺晶史 (中央水産研究所) 「紅茶沼」への誘い: ノンフレイバード・ストレートティーの楽しみ方

ポスター発表

(★ 種生物学会ポスター賞, ◆ 河野昭一ポスター賞)

森井悠太 (北大院・農)・Prozorova Larisa (ロシア科学アカデミー)・千葉聡 (東北大・東北アジア研究センター) オサムシへの対抗がもたらすカタツムリの種と表現型の多様化

小笠原希実¹・川窪伸光²・東山哲也^{1,3} (¹ERATO 東山ライブホロニクスプロジェクト/名大・院理, ²岐阜大・応生, ³名大・ITbM) ハイスピードカメラおよび 3D プリンタを用いた植物風散布型種子カエデの飛行動的メカニズムの解明

勝原光希・丑丸敦史 (神戸大・人間発達環境学) 自殖の進化の新仮説: 送粉をめぐる種間競争が先行自家受粉の進化を促進する

和久井彬実・工藤岳 (北大院・環境) 標高の異なる生育地間におけるコケモモ (*Vaccinium vitis-idaea*) の繁殖特性の比較

白井詩織・川窪伸光 (岐阜大・応用生物) マツバウンランの生活史解析

佐々木駿 (山形大院・理工)・山岸洋貴 (弘前大・白神)・大原雅 (北大・地球環境)・富松裕 (山形大・理) オオバナノエンレイソウにおける繁殖成功度の緯度に沿った変異とその制限要因

内田葉子・大原雅 (北大院・環境科学) ナガボノシロワレモコウとゴマシジミにおける種間相互作用の研究

玉田容子 (信大院・理)・市野隆雄 (信大・理/信大・山岳) 春から初夏にかけてのオドリコソウの花サイズの小型化—送粉マルハナバチが女王からワーカーへ小型化することとの関連—

高野美幸 (筑波大・生物)・大橋一晴 (筑波大・生命環境系) 花の向きは訪花者相の「フィルター」として機能しうるか? ~操作実験による採餌行動の比較~

稗田真也 (滋賀県大院・環境)・金子有子 (東洋大)・野間直彦 (滋賀県大・環境) 琵琶湖で繁茂する侵略的外来水草ウスゲオオバナミズキンバイの結実特性

相田大輔 (北大・理)・大原雅 (北大院・環境科学) 道東地方における白い花弁を持つエンレイソウ属植物の分化と繁殖

高橋佳吾 (信大院・理)・市野隆雄 (信大・理/信大・山岳) 中部山岳域におけるヤマツツジおよびレンゲツツジの送粉生態—見かけ上の送粉者と真の送粉者—

村上勇樹・辻村美鶴・加藤英寿・林文男 (首都大・生命) 小笠原諸島におけるオガサワラヤモリによる訪花・送粉

三原龍太郎・篠原義典 (信大院・総工)・服部充 (長大院・水環)・市野隆雄 (信大・理/信大・山岳) キツリフネにおける開花時期の異なる 3 型の形質分化と、その維持機構

大嶋希美・早船琢磨・大原雅 (北大院・環境科学) 一回繁殖型多年生植物オオウバユリの集団間変異

古川友紀子・川窪伸光 (岐阜大・応用生物科学) ヤブカラシの開花生態

佐藤美桜里・山尾僚 (弘大・農生・生物) ツル植物は自己・非自己を識別するか?—ウリ科ツルレイシを用いた検証—

田路翼★ (信大・理)・市野隆雄 (信大・理/信大・山岳) サラシナショウマの 3 送粉型における交配様式の分化

古川沙央里★・川北篤 (京大・生態研) カンコノキ共生系において、いびつな「果実」をつくるハナホソガはどれほど寄生的か?

梅川健人 (北大・理)・大原雅 (北大院・環境科学)・若菜勇 (釧路市教委・マリモ研) 阿寒湖のマリモの繁殖生態—遊走子の形成頻度と生育形の関係性

濱本健汰◆ (信大院・理)・伊藤建夫 (信大院・総合工学系)・北原曜 (信大・農)・市野隆雄 (信大・理/信大・山岳) ヒョウモンチョウ属とウラギンヒョウモン属における同属近縁種の共存と交雑

手塚あゆみ (龍谷大・食と農の総合研究所)・永野惇 (龍谷大・農) RAD-seq を用いた日本在来家畜対州馬の遺伝子浸透の検証

森ことの・川窪伸光 (岐阜大・応用生物科学) ツリフネソウの昆虫誘引機構を探る—3D プリンタを用いた人工花の作成—

柴田あかり・工藤岳 (北大・環境科学院) ナニワズ両性株と雌株における雌機能の比較

立木佑弥 (京大・ウイルス研/九大院・理)・深野祐也 (東大院・農) つる植物における巻き戻り行動の理論研究: 環境の不均質性と巻き戻り回数

久保田涉誠 (東大院・総合文化)・大原雅 (北大院・環境科学) 北海道におけるオオバナノエンレイソウの系統地理学的考察

田辺晶史・長井敏・安池元重・中村洋路・藤原篤志・加藤雅也（中央水研）・多治見誠亮・吉村直見（熊本県・水研セ）・西広海（鹿児島県・水技セ）・小林敬典（水研本部）・五條堀孝（KAUST）
八代海夏季プランクトン相の変遷からプランクトンのパラドックスを再考する
廣田峻・布施健吾（九州大）天然記念物ヤクシマカワゴロモの遺伝子流動パターン
小林知里・Perttu Anttonen（東北大・生命科学）・松尾和典（九大・比較社会文化研究院）・河田雅圭（東北大・生命科学）・杉山修一（弘前大・農学生命科学）下草—樹木—病原菌—植食者—寄生者の関係性から無農薬リング栽培を可能にする生態学的メカニズムを探る
佐藤安弘（龍谷大農・学振PD）・伊藤公一（エクセター大学）・工藤洋（京大・生態研）植食者の最適採餌からみたハクサンハタザオのトライコーム二型の維持
渡部俊太郎（京大・フィールド研）・金子有子（東洋大）・高倉耕一・野間直彦・西田隆義（滋賀県大・環境科学）タブノキの交配パタンの推定—異型異熟性とモルフ比に着目して—
江副日出夫（大阪府大院・理・生物）過剰な花生産の適応的意義
満行知花・綱本良啓・陶山佳久（東北大・農）MIG-seq ライブラリ構築法の改良
柿嶋聡（科博・植物）・吉村仁（静岡大・創造院）・長谷部光泰（基生研）・塚谷裕一（東大・理・生物）6年周期一斉開花植物コダチスズムシソウの生物時計に重要な環境シグナル
Takenori Takada¹, Yuko Kaneko² (¹Hokkaido Univ., ²Toyo Univ.) The optimal frequencies of mast-seeding and disturbance in a riparian tree species, *Pterocarya*

rhoifolia

西脇亜也・石黒美穂（宮崎大・農）カリヤスはカリヤスモドキによるススキの細胞質捕獲に由来する交雑種のような
篠原義典（信大院・理）・市野隆雄（信大・理／信大・山岳）ヒルガオとコヒルガオの野外における交雑の実態
荒木希和子（立命館大・生命科学）・島谷健一郎（統数研）・大原雅（北大院・環境科学）地下茎伸長のダイナミクス—クローン成長の推移行列モデル構築—
島谷健一郎（統計数理研究所）多年生草本の生活史の科学方法論：統計学の立場から
山尾僚（弘大・農生）・向井裕美（森林総研・森林昆虫）発芽する？発芽しない？：オオバコ種子による植食者の排泄物を介した被食回避
永光輝義（森林総研）・鈴木美香（筑波大）・峰翔太郎（東京農大）・滝久智・加藤珠理・菊地賢・正木隆（森林総研）Forest landscape affects pollen use and provision mass of a solitary mason bee, *Osmia cornifrons*
大野ゆかり・中静透・河田雅圭（東北大・生命科学）・横山潤（山形大・理）・大野和則（東北大・NICHe）・Metira Banluesanoh（SIIT, Thailand）・山口光太・岡谷貴之（東北大・情報科学）人工知能からの挑戦状—人工知能は研究者の同定能力を超えるのか？—

学会ウェブサイトでは、シンポジウムの様子が写真とともに紹介されています

お知らせ

1997 年以前の和文誌がオープンアクセス公開されました—NII-ELS（国立情報学研究所電子図書館）の事業終了にともない、9月から国立国会図書館デジタルコレクション（<http://dl.ndl.go.jp/>）において「種生物学研究」1～21号がオープンアクセス公開されることになりました。これに伴い、バックナンバーの販売を取り止めますので、今後は電子版をご利用ください。引き続き、CiNii（<http://ci.nii.ac.jp/>）では論文情報を検索することができます。

英文誌の掲載料に関する投稿規定が変わりました—9月1日以降に英文誌（*Plant Species Biology*）へ投稿された論文から、掲載料（ページチャージ）に関わる投稿規定が変わりました。非学会員から投稿された論文では、最初の4ページに関しては10,000円／ページ、それを超えると15,000円／ページの掲載料が必要となります。学会員

からの投稿に関しては、これまでどおり、Regular Paperは10ページ、Notes & Commentsは4ページまで無料となります。これを超えた場合、1ページ当たり5,000円のページチャージが必要です。これまでよりも学会員のメリットが大きくなりましたので、是非 *Plant Species Biology* に御投稿ください。

事務局が変更となりました—2016年12月の総会において、事務局とその所在地を山形大学理学部内へと変更する会則第2条の改正案が承認されました。事務局の電子メールアドレスに変更はありません。

電子メールアドレス更新のお願い—種生物学会ではさまざまな情報を電子メールで配信しています。メッセージが届かない方は、電子メールアドレスが登録・更新されておきませんので、事務局（office@speciesbiology.org）までご連絡ください。

会計報告

2016年度一般会計 決算 (期間: 2016年1月1日～12月31日)

収入の部	予算額	収入額
会員会費	4,000,000	1,886,000
購読料	150,000	48,000
バックナンバー	200,000	2,406
著作権料	100,000	133,465
PSBロイヤリティ	500,000	785,918
超過ページ代	100,000	45,000
その他 (片岡基金・利息など)	1,000	8,076
小 計	5,051,000	2,908,865
前年度繰越金	1,604,683	2,423,156
合 計	6,655,683	5,332,021

支出の部	予算額	支出額
印刷費 Newsletter	120,000	0
出版委託費	4,000,000	3,942,661
PSB 2016年 Vol31.(1-4)	3,000,000	3,000,000
和文誌 2016年発行 (38号)	1,000,000	942,661
事務費	490,000	110,340
発送費	150,000	4,674
冊子発送作業費	80,000	0
その他	260,000	105,666
和文誌編集補助	30,000	0
英文誌編集補助	250,000	250,000
シンポジウム補助金	30,000	0
会計監査交通費	20,000	0
学会賞	40,000	0
自然史学会連合分担金	20,000	20,000
日本分類学会連合分担金	10,000	0*
男女共同参画連絡会分担金	5,000	5,000
予備費	30,000	0
小 計	5,045,000	4,328,001
次期繰越金	1,610,683	1,004,020
合 計	6,655,683	5,332,021

収入その他 (寄付金8000、利息76)

*前年度に支払い済み

2016年度片岡基金決算報告

(期間: 2016年1月1日～12月31日)

収入の部	収入額
利息	82
前年度繰越金	821,217
合 計	821,299

支出の部	支出額
片岡奨励賞副賞	100,000
PSB論文賞副賞 (楯)	29,052
次年度繰越金	692,247
合 計	821,299

(前会計幹事: 渡邊幹男, 現会計幹事: 堂園いくみ)

2017年度一般会計 予算 (期間: 2017年1月1日～12月31日)

収入の部	予算額
国内会員会費	4,000,000
購読料	60,000
バックナンバー	50,000
著作権料	200,000
PSBロイヤリティ (含, 海外会員の会費)	500,000
超過ページ代	100,000
その他 (利息など)	1,000
小 計	4,911,000
前年度繰越金	1,004,020
合 計	5,915,020

支出の部	予算額
印刷費 Newsletter	10,000
出版委託費	4,000,000
PSB 2017年 Vol.32 (1-4)	3,000,000
和文誌 2017年 (39号)	1,000,000
事務費	500,000
発送費	200,000
冊子発送作業費	100,000
その他	200,000
和文誌編集補助	30,000
英文誌編集補助	250,000
シンポジウム補助金	30,000
会計監査交通費	10,000
学会賞	40,000
自然史学会連合分担金	20,000
日本分類学会連合分担金	10,000
男女共同参画連絡会分担金	5,000
予備費	30,000
小 計	4,935,000
次期繰越金	980,020
合 計	5,915,020

種生物学会ニュースレター 第50号

発 行 種生物学会
<http://www.speciesbiology.org/>
 編 集 富松 裕 (庶務幹事)
 〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12
 山形大学理学部内 種生物学会事務局
 発行日 2017年10月4日
 印刷所 株式会社 三光社